

再生資源供給サプライチェーンの強靱化に関する検討会

2026.8.26

一般社団法人 SusPla

理事／副幹事長 平野二十四

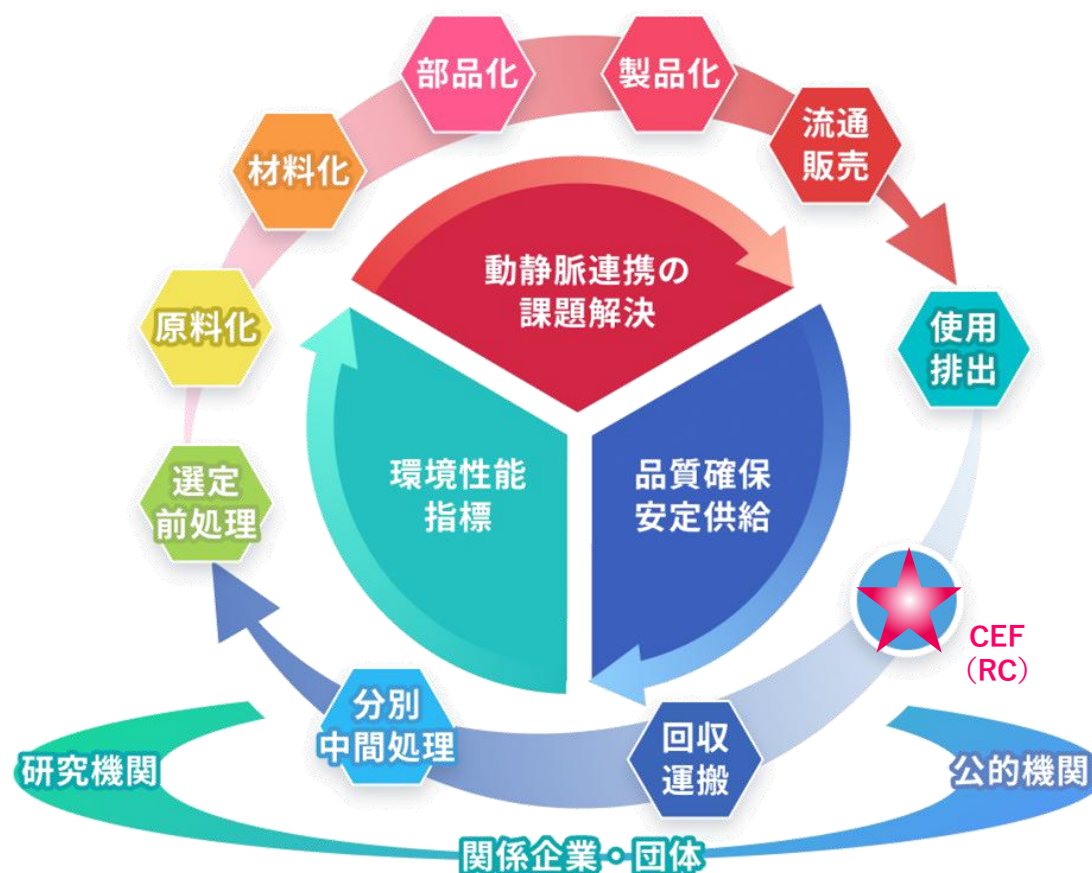
(株式会社タイボー 代表取締役社長)



一般社団法人SusPla (Sustainable Plastics Initiative)

- マテリアルリサイクルによる**再生プラスチック市場の確立・拡大**を目指して設立
- 心臓産業の会を中心とする資源循環産業企業からの呼びかけで、趣旨に賛同した事業者等が集まり、2024年7月16日に任意団体を設立。
- 2024年7月 任意団体設立
- 2025年4月 一般社団法人SusPlaを設立
- 自動車・家電・化学・プラスチック成形加工・繊維など幅広い産業分野、大学・研究機関、そして自治体等**プラスチックの再生利用に関わる多様なステークホルダーが集結**し、マルチステークホルダーパートナーシップを形成
- 正会員（事業者）：158
特別会員（自治体、研究機関）：19
合計：177（※2026年7月末現在）
- 2030年までに 再生プラスチック利用の倍増を目指す

日本から世界に示す、
マテリアルリサイクルによる
プラスチック資源循環エコシステム



動脈産業、静脈産業、資源循環産業、研究機関、行政機関、支援機関等による
マルチステークホルダーパートナーシップを構築

SusPla 長期展望



**再生プラスチック資源循環エコシステムを創造し、
資源循環の高度化・活性化に向けた世界の活動を牽引する**

再生プラスチック（事業／事業者）の高度化
（安全、安定品質・安定供給：信頼される供給産業へ）

再生プラスチック（事業／事業者）の価値訴求
相互理解・意識変革・行動変容

プラスチック資源循環産業（市場）の確立

- 日本のものづくり、経済、社会を支える資源の確保
- 地球環境課題への対応

日本のプラスチック資源循環 投資が進まない理由（課題）は何か

■ 積極利用のプラスチック資源サプライチェーンとなる為には

- ◇ 利用したいと思う市場の形成（不足）
（インセンティブ、規制、適正価格形成等合わせ技含めて）
- ◇ 利用する為の 量・質・信頼 の確立
（集約拠点のアシスト・SPC第3者認証）
- ◇ 全体最適で動静脈が連携できる社会システムの構築
（循環を前提とする S C 構築に向けたインセンティブ・支援策・規制）

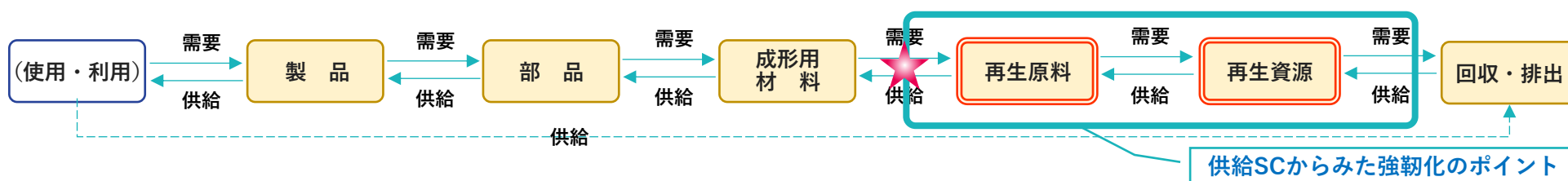
市場形成、産業化は、

- ①最終需要からバリューチェーンを創るプル型の流れ（ニーズオリエンテッド）と、
 - ②シーズの創造・応用からサプライチェーンを創るプッシュ型の流れ（シーズオリエンテッド）があるが、
着実に確実に産業育成（市場形成）を図るには、前者（需要プル型）が望ましいと思われる。
- 市場化されている産業のサプライチェーンも、各段階は“**需要の連鎖**”によって形成されていると言える。

※需要をしっかりと創り、つなぐことが重要と思慮

需要と供給は表裏一体

※ サプライチェーンは、“**需要の連鎖**”によって形成されている。需要を確実に創り、つなぐことが重要



■ プラスチックのマテリアルリサイクルにおける現状について

1. 全体最適（合理的）な資源循環のための「**社会構造**」が構築されていない
（安く捨てることができるうえ、廃棄物を技術でリサイクルしようとしている）
2. Supply Chainで資源循環に必要な事業が「**産業**」として位置づけられていない
3. Supply Chainで資源循環に必要な事業とその「**役割**」の全体最適が確立されていない
4. 国内のMaker & Importerは、製品の機能に「**Recycle性能**」を織り込めていない
5. 国内のMaker & Importer & Distributorは、「**資源循環の実現**」に責任を持っていない
（自社で使うだけでなく 新たに製品となるモノのMarketing・開発・Distributなど）
6. 排出者は**Recycleするよりも手間をかけず、安く、廃棄**（エネルギー利用を含む）が出来てしまう（産業・Consumerともに）
7. 樹脂種は同じでも配合内容、物性など多様 → **量を集めると低下する品質、上がるコスト**
8. プラスチックを多く消費する需要家が注視する**同一品種での供給可能量が不透明**
9. 用途・ニーズを最も把握している**バージン材料メーカーとの協力体制が不十分**

■ 個別技術／事業に投資を決めるには「使う市場」の確立が必要

★ 従来の見方 供給側起点

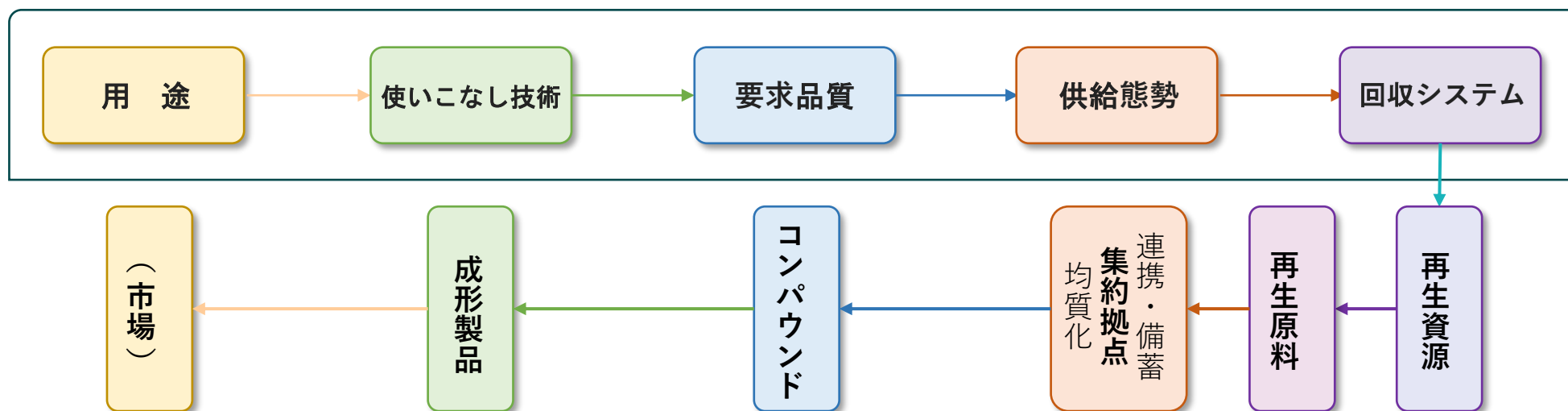
「集める」事は整理されるが、
用途不明で分別、加工、の仕方が決まらない



回収・設備の議論だけでは、需要側の投資判断につながらない

★ SusPlaの見方 需要側起点

需要側が「使える」と判断できる技術・品質・認証・情報を先に定義する



需要と供給は表裏一体

※ サプライチェーンは、“**需要の連鎖**”によって形成されている。需要を確実に創り、つなぐことが重要

■ 全体最適と役割りの明確化（誰が、いつ、どこまでやるか）

（例） ・ ・ ・ ※ 関係主体が集まり、コンセンサスをつくって行動することへ

主体	Phase1 可能性確認	Phase2 安定実装	Phase3 標準化
国	実証・認定の枠組み	投資支援・需要創出	標準・国際接続
自治体	回収資源の把握	広域回収・集約	地域循環モデル
リサイクラー （資源・原料化）	原料・処理条件提示	品質安定供給	供給能力拡大
再生材料メーカー	配合・加工評価	量産品質管理	用途別グレード化
需要家／OEM	用途候補提示	長期契約・仕様合意	設計標準化
SusPla	使いこなし技術整理	指標・認証・データ連携	標準化・横展開

役割りの全体最適

（SusPlaは「政策実施主体」ではなく、官民が使う共通ロードマップ・評価指標を提供する）

再生プラスチックSC強靱化のために制度として何を整備すべきか

必要な経済的支援策、制度の整備（国支援、制度として）

提案：プラスチック資源循環 社会システムの構築 ～そのための支援策、制度整備～

◆ 需要創出

- ・ 目標達成 **インセンティブ制度** ・ 顕彰制度、規制 ・ 課税政策（規制は時間稼ぎで対応）
（ex. リサイクル性能を設計に織り込んでリサイクル、Reリサイクルを実現できたことへの優遇等）

◆ 認証制度の構築（※需要と供給のソフト的連携）

- ・ 動静脈連携の実装（再生材 **供給力強化を企図する認証**、信頼の構築）
※動静脈連携で構築し、品質向上・安定化と安定供給システムを実装する事業者を認証（育成）する
SPC認証プログラム（制度）の普及・拡大の支援

◆ 投資支援（具体的事項等 後記）

- 投資支援（経済的支援）の方向性 ※官民協調投資を促す
 - ・ 業界／業態の経済規模の明確化（官、専門機関主導） ※15兆円ぐらいの規模感？
 - ・ 再生材製品（再生材用設計製品）のマーケティング（需要側主導）
 - ・ 再生材に合わせた要求品質（ベースグレード）作り（供給側主導）

※集約拠点の構築（集約拠点で必要となるインフラ、設備、技術等に集中投資）→ 後記

- マテリアルリサイクルに関わるサプライチェーン上の事業者を品質・安定供給・安全・環境の観点から総合的に評価する事業所（工場）認証
- 安心かつ安定して使える再生プラスチック市場の醸成に貢献することを目指す

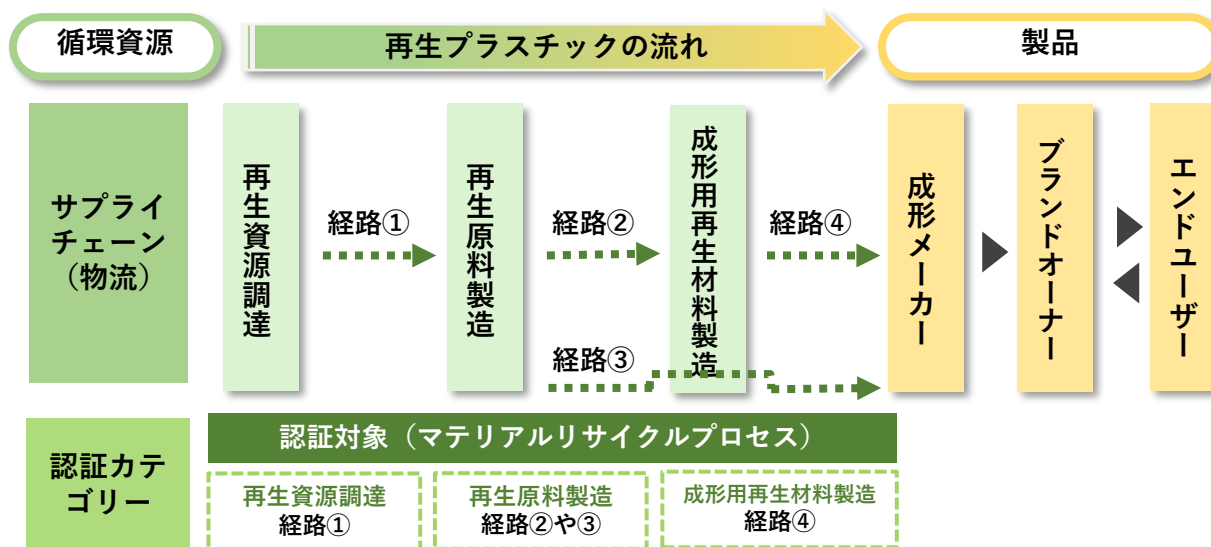


特長

- 品質・供給・安全・環境についてまとめて評価可能
- 日本発、低コストで実現

SPC認証の狙い

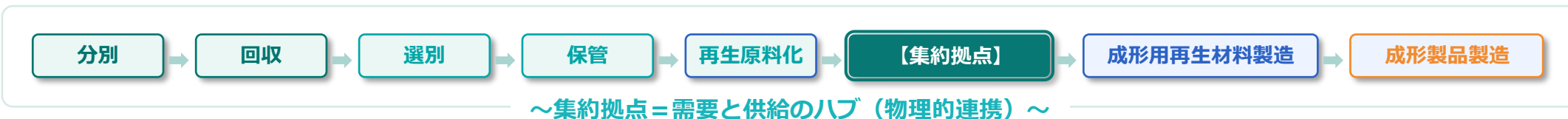
- 認証を取得している企業からは安心して購入できる
- 認証を取得している企業に安心してリサイクルを委託できる
- サプライヤー監査負担の軽減
- 再生プラスチック事業者の認知度向上
- 資源循環産業化への貢献



※ 引用：一般社団法人サステナブル経営推進機構資料

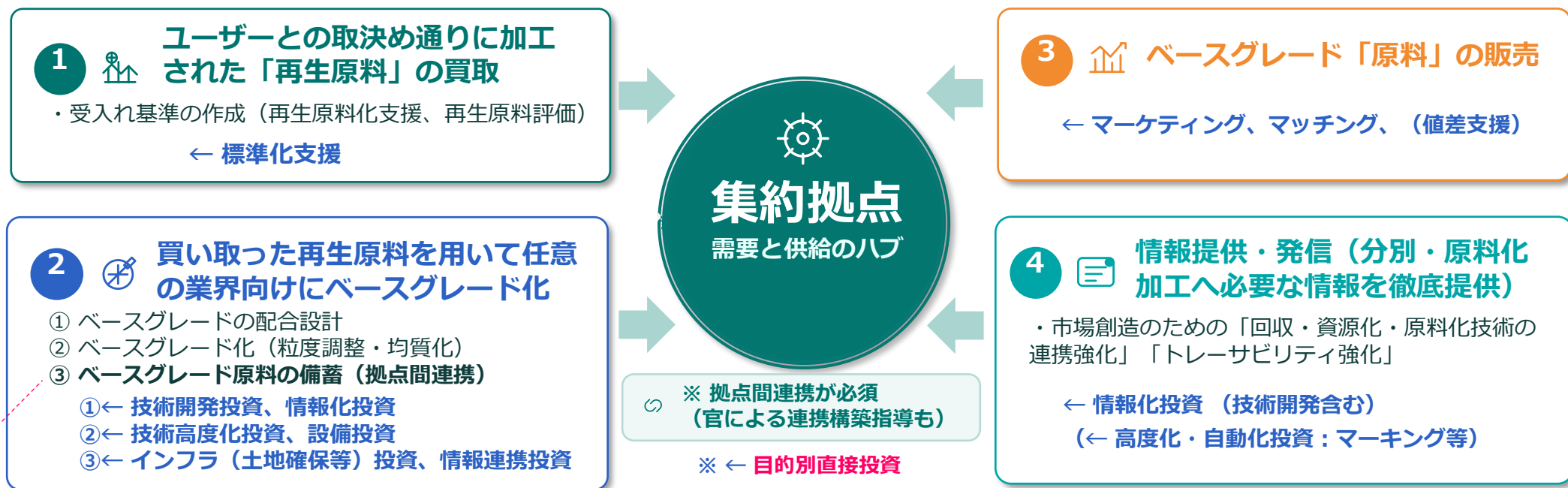
経済的支援策（投資等）、制度の整備＝提案：再プラ集約拠点の整備（集中投資）

 リサイクルのサプライチェーンプロセスの中の「集約拠点」の位置づけ
 集約拠点＝需要と供給のハブ（物理的連携）



◆ 集約拠点に求められる機能と必要な投資等の支援

～集約拠点＝需要と供給のハブ（物理的連携）～



※ 事業展開、直接投資を支える間接投資（支援）

⑩ 投資（事業）を促進し、投資を支える支援・制度

① 資本参加

② 制度融資

③ 利子補給

④ 値差支援

「経済安全保障」と「自動車などの大口需要家」の安心には、相当の備蓄が必要

集約拠点が軌道に乗る（本格稼働）までは支援が必要

Thank you for your attention

問い合わせ先

一般社団法人SusPla 事務局

e-mail : info@suspla.or.jp

(資料作成 : SusPla 事務局)